第1回　横浜市ＭＩＣＥ機能強化検討委員会　会議録	
日　　時	平成２３年7月１３日【水】１３時３０分～１５時３０分
開催場所	関内中央ビル　１０階会議室
出 席 者	〔委員〕 鎌形太郎委員、川﨑悦子委員、齊藤毅憲委員、桜井秀夫委員、髙見牧人委員、 椿愼美委員、森口巳都留委員、渡辺厚委員 〔事務局〕 光田文化観光局長、赤岡観光コンベンション部長、矢野コンベンション振興課長、 桐原コンベンション振興課施設担当課長
欠席者	なし
開催形態	公開　（傍聴人１０人）
議　　題	１　開会あいさつ（光田文化観光局長） ２　委員長の選出　、委員自己紹介 ３　現状説明 ４　意見交換 ５　その他
議　　事	1　開会あいさつ （ 事 務 局 ） ＜委員会設置趣旨及び、会議の公開について＞ ２　委員長の選出 （ 事 務 局 ）委員会要綱第４条により互選になっております。どなたかご推薦ありませんか。 （桜 井 委 員）横浜市のまちづくりに詳しい斉藤先生にお願いしてはどうでしょうか。 （ 事 務 局 ）斉藤先生というお声がありましたがどうでしょうか。（異議なし） 斉藤先生、よろしいでしょうか。それでは、これから先の議事進行については斉藤委員長にお願いします。 **３ 現状説明** （ 事 務 局 ） ＜資料４　国際観光・MICE 都市の実現に向けたアクションプランの説明＞ ＜資料５　横浜市の現状についての説明＞

	４ 意見交換 （齊藤委員長）本日、議論していただきたい内容は２つあります。 資料４について、２３年度経済観光局がＭＩＣＥに関するアクションプランを出しています。これについてのコメントや、また、大震災後の状況の変化があるのかないのかについてもご意見をお願いします。 パシフィコ横浜は今回の大震災で施設等への影響はありましたか。 （事務局）パシフィコ横浜の震災による影響ですが、大きく２つありまして、一つは施設への影響、どのくらい壊れたかという状況ですが、通常の営業に影響を及ぼすような大きな損傷はありませんでした。しかし、展示ホールの間仕切りやホテルの一部が少し痛んだり、施設と施設の間の接合部に損傷があったりして、昨年度の会計決済から5300万円程の損失を引き当てましたが、修繕はすべて完了しています。 もう一つは営業上の影響ですが、３月、４月はかなりのキャンセルがありました。３月の震災後の開催は７件、それも小規模な会議が中心で、ほとんどの大規模中規模の会議は中止され、３月のキャンセルは２４件でした。４月は当初３４件の開催予定のうちキャンセル２５件、最終的に開催があったのは７件でした。５月の連休以降はほぼ戻り、本日ではキャンセルはほとんありません。 また、夏季の電力ですが、大規模施設として節電の対象になっていますが、自家発電装置を２台を設置しており、その利用で１５％の電力削減が可能になっています。 （齊藤委員長）他に何かございませんか？ アクションプランについて、また付け加えたいことはございませんか？ （鎌形委員）今回の委員会の目的は、ＭＩＣＥ拠点の機能強化であり、その前提としての市としての考えは説明頂きました。横浜市の成長戦略としてＭＩＣＥの拠点として国際的地位を確立する、ことを目標として掲げられています。その議論の前にそもそもＭＩＣＥの拠点として国際的な地位を確立することの目的は何か。資料をみると経済波及効果の最大化が一つ大きな目的だと思いますが、ＭＩＣＥの目的としては、学会をたくさん誘致するとか色々な意味合いがあると思います。どこに一番目的をおいてフォーカスして議論したらいいのか。また戦略として、ＭＩＣＥには４つ（Ｍ・Ｉ・Ｃ・Ｅ）ありますが、何を中心に誘致をしたらいいのか。これも国際会議とあったのでその辺を目標として考えていると思いますが、前提となる考え方についてもう一度説明して下さい。 （事務局）まずＭＩＣＥの強化ですが、内需については特に、海外から人を呼ぶことで経済の活性化をさせることが大きな目的です。もちろん、文化交流、スポー

ツ交流、医学交流、産業交流も重要ですが、人が集まることによって消費活動を活性する手段ということがＭＩＣＥで大きいと考えています。またＭＩＣＥの４つのうちのどれかについてですが、横浜の大きな特徴は、件数は3位ですが、参加人員が多いこと。それを分析すると大型・中型の会議が多いと言えます。しかし小さいもの、特に大学などでの会議がそれほど多くない。大きい会議の開催に加えて、世界中に大きい会議がそんなにたくさんあるわけではないですし、小さい会議、特に国内会議をもっと国際会議にしたいという学会に支援をさせて頂き、多くの外国人の方を呼んでいきたい。

さらに需要だけでなく、ＭＩＣＥには地域文化交流により地域が活発になるということがあるので、都市の活性化が図れると思います。

（齊藤委員長）経済的なものが大きいということですか？

（ 事 務 局 ）ＭＩＣＥ観光分野に関してはそうです。

（齊藤委員長）国際会議について、うまくいくか疑問あります。

横浜の大学の力の弱さが、国際会議をあまり取れない、という状況を作っている。また、なかなかお金が落ちないということもあると思います。国内学会さえも開催してないので、国際会議の前に国内の学会をまず開いてほしいと思います。

（ 事 務 局 ）まずは国内学会を開いて頂きたいと思いますが、各学会の皆さんは、国内会議を国際会議まで広げたいと思っていらっしゃると思うので、例えば通訳を派遣したり、キーパーソンを呼んだりという支援により後押ししていきたい。学会も国際的なものになれば、学会の中で伸びていくし、また都市としての活力も上がってくるので、まずは開いていただくこと、そして出来る支援はさせて頂きたい。

（高見委員）そもそもアクションプランをご検討されたときの背景を教えて頂きたい。

（ 事 務 局 ）当時中期４ヵ年計画を作っていて、それをより具体化するため、ＭＩＣＥに造詣の深い外部の有識者の方によりアクションプランを作らせて頂きました。予算に出来るだけ反映したいということもあり、アクションプランの中で主な意見を出してもらいました。例えば大学の話については、２３年度予算の中で、市内大学応援のプランを参入させるなど、できるだけ委員の先生方の意見を元にした施策を具体的に進めているところです。

（高見委員）この委員会との関係は、資料３を拝見すると、横浜市のＭＩＣＥ機能強化についての５本の柱の中の、“拠点の機能強化”を重視されているように感じるのですが、他の部分についてはどうなのでしょうか？

（ 事 務 局 ）拠点の機能強化を１番に考えています。

（川﨑委員）ＭＩＣＥの誘致の中に、国際会議とイベントの開催による集客について挙

がっていますが、先ほど齊藤先生からお話があったように、横浜市内の大学の力が弱く、国際会議が難しいとの話ありましたが、資料５を拝見すると、横浜市内には企業がたくさんあるということで、ＭＩＣＥのうちMの企業会議や、企業が主体となったインセンティブ旅行、Ｉについても可能性があると思いますが、国際会議を重点的行うとして、ＭとＩについてはどのような活動を考えていますか？

（事務局）２点あると思うのですが、まず大学関係については、２３年度予算で、市内の大学の先生方が、まず国内会議になりますが、学会の中で横浜開催できるように支援しています。

企業ミーティングについては、今後国内競争に勝っていくためにも知恵をお借りしていきたい。

（齊藤委員長）４ページ目、市内大学の開催件数は８件。国内のほかの大学と比べても、非常に低い。横浜の国際会議の件数をもっと上げるべきだと思います。東京に依存してきた横浜の長い歴史がありますが。

また、今お話があった企業の会議についてもやる必要があるのではないか、と感じます。

（椿委員）横浜市でこれをやることの意味は、ＭＩＣＥを活発化させることによって、横浜市の国際都市としてのイメージをアップさせることなのか、経済波及効果を追及して横浜市の財政に寄与するということなのか、インテリジェンスのイメージをアップさせることなのか。そもそものきっかけはどのようなところなのでしょうか？

（事務局）資料５、１ページ目の下段に中期４カ年計画の全体像があります。中期４カ年計画は2011年からの４カ年計画なのですが、作り始めた当初、リーマンショックで経済がガタガタな状況でした。計画の特徴として、横浜の成長戦略がありますが、その８本の柱の１つとして、観光都市戦略というものがあります。

大元の目的は日本経済を成長させていくことと考えて頂いていいと思います。ただ計画に落とし込んだとき、戦略２、観光創造都市という狙いがありますが、観光とＭＩＣＥがセットなので、ＭＩＣＥについては拠点としての国際的な地位の確立、ＭＩＣＥも含めた観光全体のアジアからの誘客、それから文化観光の拠点都市というのが本市としての戦略です。どれかとは絞り込めませんが、大元には成長戦略というものがあります。

（椿委員）どちらかというと、パシフィコもあるので、大型のコンベンションに重点を多くことになるのかな、と思います。確かに学会などは、大学が活性化するためには有効かもしれませんが。

（事務局）国際会議にも色々種類があるのですが、数ある中でどういったものをターゲ

	ットに誘致していくかについても議論して頂きたいと思います。 　例えば横浜は東京よりも学会系、医学系のコンベンションに積み重ねが多くありますが、仮にそれを切り捨てて、大型の学会に力を入れるのがよいのかなど、強みや弱みについての営業戦略みたいなことについてご議論頂きたいと思います。 （鎌形委員）　成長戦略的な意味で経済活性化をすることが一番大きいと思います。 　それ以外の効果も色々あると思うのですが、具体的にどういうＭＩＣＥが横浜にとって必要かを考えて、ターゲットをどのように誘致していくか、そのためにどのような拠点作りをすべきなのか？ 　パシフィコの稼働率が高くて断っている状況もあるということですが、実際どのようなものに使っていきたいのかという視点が大切だと思います。 （齊藤委員長）医学系やサイエンス系は結構お金があるのですが、人文社会系については予算が少ない。 　私も日本経営学会をパシフィコに申し込みましたが無理でした。会員は2000人近くいるので500～600人くらい集められるのですが、断られました。市からのフォローが200万円ありましたが。 　今日の議論では、資料３で横浜ＭＩＣＥの強み・弱み、これから検討すべき視点ということにも意識してお話いただきたいのですが。 （椿委員）資料５の４ページ、助成金の上限金額について書いてありますが、これは１件についてなのか、どのような形のものなのでしょうか？ （事務局）国際会議１件あたりの上限という意味です。 （齊藤委員長）資料５についてご質問などあれば先に伺って、それから横浜の強み・弱みについて発言頂きたいと思いますが、何かご質問はありますか？ （事務局）1件1000万の交付金について話を補足すると、すべての会議に1000万でるわけではなくて、会議の大きさによるのであって、上限が1,000万ということです。毎年何十件も1000万出ているわけではありません。 （斉藤委員長）コンベンションの波及効果、狙いや目的について。経済波及効果は、やはり社会的効果より上ですよね。国際会議などは経済波及効果というより社会的効果、つまり都市のイメージがよくなることであって、もう少し企業的なものや観光客の誘致などをやった方が、直接的には経済効果につながるのではないか、と思うのですが。 　それと経済波及効果と社会的効果が独立して存在するのでなく相互に関係しており、経済波及効果と社会文化的な効果を同じレベルで捉えた方ががいいと感じます。 （川﨑委員）昨年度私どもの方で、１６都市で開催された国際会議の経済波及効果につい

て調査をしました。具体的にどのくらいの効果があるかは人数や開催期間によって変わってくるので、観光客と国際会議出席者を比較した場合、観光客というのは長くて１箇所につき２泊から３泊。横浜の場合、横浜に宿泊される方もいるとは思いますが、東京から日帰りするケースも観光客の場合は多い。一方、会議の場合は３日間くらい開催されものが多いので少なくとも２～３泊、宿泊費や会費の使用料、日々の食費、お土産代、会議に関わる色々な資料等を考えると、おそらく観光より一人あたりの支出額は大きいので、会議を開催することの経済的効果は観光よりあると思います。

しかし斉藤先生がおっしゃるように、経済的波及効果と文化的波及効果についても、国際会議を開催するにあたっては大変重要だと思うので、横浜の場合は海外からの方が住んでもいらっしゃるということもありますが、意外とみなとみらいを離れると、外国人と地元の方の交流や、横浜市内にある企業や大学でやっている研究などが、知られていないケースもあると思います。会議をきっかけに知識や情報が市民の方に浸透することによって、若い方の人材育成に大きな意味があると思うので、経済的効果、社会的効果、文化的効果は等分にあって然るべきだと思います。

（高見委員）コメントというより仮説なのですが、経済的波及効果は直接的な経済効果ですよね？社会的波及効果に書いてある学術レベルアップや情報発信効果も、経済的なものに当然影響するのではないか？もう少し言うと、近年ネット社会とか言われますが、産業や経済は人のネットワークで促進されるので、コンベンションあるいは、ミーティングという世界のレベルのものが色々ある中で、地域の産業の進展やリノベーションが生まれてきているのではないか？広い目で見たら、そのような効果は必ずあると思っています。

なぜそれを考えたかというと、数年前アメリカに駐在していたのですが、アメリカは大きな国で、頻繁に電話会議をしたり、人が集まって会議やミーティングをしたりしました。日本の会議は形式的なものが多いですが、あっちの人は徹底的に議論して、何かそこから新しいものを生み出そうとする面が強い。もしくは本当に新しいネットワークなどを会議やミーティングを通じて作っていて、それが彼らの強みになっており、アメリカと日本の社会の違いがその辺にあるのではないかと、感じた所があります。

この図を見たときに、少し広い意味での経済的効果、ここに書いてある社会的波及効果も含めて、いろんな意味でのリノベーションみたいなものがあるのではないか、と考えています。

（斉藤委員長）６ページ目に横浜の強み・弱みが書かれていますが、この辺についてコメントいただければと思います。

	（桜井委員）強みは国内有数の機能集積型のコンベンション施設で、会議場、展示場、ホテルの３施設が１つの敷地にあり、それなりの規模もあり、２０数年前にパシフィコ横浜を作ろうとしたみなさんのイメージがそのまま出ていている。今では３つが非常にうまく機能して、日本国内では、私は営業の責任者ですが、たぶん一番競争力のある施設ではないかと思っています。また開業２０周年ということで、ノウハウの積み重ねがあり、お客様に提案型の営業が出来るということもパシフィコの強みだと思います。 あとは羽田の再国際化、ということがありますが、国際会議の主催者、あるいは産業見本市で人が来やすいということで高い評価をされています。 それから理化学研究所や海洋研究開発機構、横須賀のＹＲＰなどの産業集積もあるので、産業見本市の出展者と来場者が集まりやすい、ということも横浜の強みだと思います。 一方弱みもあり、稼働率が限界に近いこと。会議センターに関しては、今２年くらい先の大型・中型の予約が確定している状況で、３年くらい先までほぼ確定している。春･秋に関しては新しいお客さんはもう取れない状況にあります。展示場は２年先までほぼ予約が固まりつつある状況で、稼働率が高く、新たなお客さんをなかなか取りにくい。 資料にもありましたが、８月や１月の稼働率の低い時期、我々はオフシーズンと呼んでいますが、ニーズがあまりない。それだけに新しいニーズをつくらなくてはならないのですが。 また、駐車場スペースが足りないこと。具体的には搬入出車両、一般的に言われるのは２万㎡あれば、同じスペースの搬入出用駐車場が必要といわれます。つまり２万㎡の駐車場が必要で、今は20街区や耐震バースという港湾施設を使わせていただいている状況です。東京ビックサイトは８万㎡の展示スペースに対し11万㎡の駐車場、幕張メッセは７万㎡の展示スペースに対し10万㎡の駐車場を持っています。 あとは海外での知名度の低さも確かにあります。パシフィコ横浜や横浜の知名度は低い。国際会議を決める場合、国際組織はヨーロッパにあることが多いので、その方々にどれだけ知られているか、横浜らしさを横浜コンベンションビューローと一緒に広報活動などやっていますが、まだまだ力を入れていく必要があります。 また市内の大学や病院などの方々が国際組織の中で活躍することが国際会議の誘致に繋がっていくと思いますが、ここ数年そういう方々が減っている状況にある。大型の医学会の誘致についてもしばらく苦戦すると思われます。 （斉藤委員長）国内では有数の施設ということですが、しかし台頭するアジアのほかの国を

	意識した場合には弱い。それから２０年の蓄積は非常に大きい。 　あと弱みとしてはハード面の施設にもう一度サービス面の配慮が必要ということなのでしょうか？周辺の環境も含めて、季節的に空いているときもあるということですが、4,000件申込みがあって1,000件しか開催できていないというのはチャンスを逃しているということですね。 　それから意外と横浜は世界的に知名度が低いこと、また横浜の大学の弱さもやはりいけないでしょう。 （高見委員）弱み・強みの表の中で、パシフィコの施設的な話などありますが、先ほどのアクションプランについて、５本ほど柱が立っていて、ハード的なご指摘がありましたが、（２）以降の誘致などいろいろやることがありますが、私はもっと議論すべきだと思います。 （椿委員）今議論あった強み・弱みについて、パシフィコの弱みが限界に近いということになると、誘致というより施設が足りないので施設を作らなければならない、ということになるのでは。それと、稼働率が限界に近いのに財務基盤が弱いということは、致命的なことがあるのではないでしょうか。 （桜井委員）営業面だと2010年度は、3.11の影響でキャンセルが発生し、売上げを一部ロスしたものの、それでも開業以来最大の売上げで、営業的には非常に良い状況。大型のコンベンション施設で民間会社が設置し、経営しているのはパシフィコ横浜だけ。民間経営をしている所もありますが、設立は地方自治体です。 　一方借入金は延べ560億と非常に多く、20年間で280億円まで返済しましたが、資本が少なく借入金の大きいスキームで行ったため、借入金の負担が多く、財務状況は厳しい。 （椿委員）他の施設はいかがですか？ （事務局）その他のコンベンション施設の投下資本は、地方自治体で賄われているので、設立当初の借入金は極僅かです。 （椿委員）設立時の根本的な問題ということですね？ （事務局）当時はバブル期で、一定の成長が見込まれていましたが、バブルが崩壊し、なかなか経済成長に至らず、結果として借入金が大きな負担となっている。 （鎌形委員）コンベンション施設は、民間ベースで儲かるような仕組みを作り難い。日本のコンベンション施設は公的な機関が作るような仕組みで行っています。その中でパシフィコは民間。海外では民間運営もあるようなので、その仕組みを今後研究すべきです。 （渡辺委員）事務局への要望ですが、観光とMICEにおいて、横浜は強い。観光とMICEは、横浜の成長の柱、ということまで決まっているのだから、もっと明確に行っ

てきたことを示し、議論すべきです。

パシフィコの経営計画に関しても、パシフィコ横浜において専門家を集めた委員会で既にこの先の見通しを明確にしたはすです。経営面を除けば、パシフィコは圧倒的シェアで勝ち組。今まで議論してきた背景や経緯を理解できるような資料を作った上で、内容を明確に議論していくべきです。

（森口委員）日本においてパシフィコ横浜は、ナンバーワンですし、横浜市はコンベンションシティとして実力、ノウハウ、ソフト面、ハード面も持っていると思います。先ほど経済波及効果の話がありましたが、施設面の強化に限界があれば、コンベンションに展示会やインセンティブの要素を入れるなどして、一つのコンベンションの横浜への回遊を高める方法もあると思います。

横浜市はきれいにまとまっていて優等生。しかし、横浜でなければいけない理由がないので、尖がった部分をみせていく必要があります。

先月韓国のMICEに出張しましたが、海外では日本の情報が少なく、どのようにして日本でMICEを開催したら良いのかわからない主催者が多い実体が分かりました。横浜だけの問題ではないので、国を挙げて考えていくべき課題だと思っています。

（川﨑委員）海外では、日本に対する知識が少ない。日本はアジアの中で最も国際会議の開催件数が多い国なので、会議の開催地として徐々に認識されています。しかし、実際に日本のどこで開催できるのか、その一つ一つがまだ知られていません。横浜はその中で実績があり、海外の、特にアジア地域で大型MICE施設が出来ている中で、ハード面だけでなくソフト面で信頼されていると思います。

横浜の強みは施設だけではなく、横浜観光コンベンションビューローの経験豊かなスタッフやきめ細かいサービスも大きいと思います。会議を開催する大学の先生は忙しく、細かい作業を嫌うので、いかに先生の手間を省いてサポートするかが重要です。先生から信頼を得て情報提供するノウハウや、サポートが大切。その点で横浜観光コンベンションビューローは経験が豊富です。しかし横浜は会議開催件数が多いので、マンパワー的に厳しいのでは？会議施設の強化とともに、ソフト面では人材の育成が求められていると思います。

また大型の会議でパーティーを開催することがありますが、昨今、経費の安いアジアの国々と競争力を持つためには、日本が金銭的に勝負をすることは厳しい。その中で、他の国にはないユニークベニューを使用することが有効だと言われています。大きな会議になればなるほど、集まる人数も1000人～2000人と多くなる。小さい規模なら問題ないですが、1000人～2000人集まれる施設は会議場にはありません。横浜アリーナは選択肢の一つですが、ア

リーナ施設は残念ながらどこの国にもある。日本の独自性が見えにくいものは好まれない。施設として大規模である必要はないけれど、1000人程度、少なくとも400人～500人程が一堂に集まれてイベントが楽しめ、横浜らしさや日本らしさを感じられる場所の開発が必要だと思います。きれいな都市の中でいかに日本らしさを見せるかについて考える必要があります。

（斉藤委員長）強みの話を受け、配布資料の表が変わってくるのではないでしょうか？人的パワーが弱みである反面、人材育成が強みであったりする。外部環境の機会・脅威についても考えていかなければいけません。ボランティアは多いが、強みの「参加意識の高い市民」というのは信じていいのか。１５年程前に行った市民へのアンケート調査では、ランドマークや中華街は知っているがパシフィコを知らない人は多かった。クリエイティブシティの取り組みが本当にうまくいっているのか検証する必要があるのではないでしょうか。

（桜井委員）パシフィコは現在は勝ち組。しかし10年後にも勝ち組でいられるか？大型の国際会議は大体アジア、アメリカ、ヨーロッパと持ち回りで行うものですが、一昔前なら、アジアといえば日本で開催していて、競争といえば国内でした。しかし現在はアジア内での競争が激しくなっていて、特に中国と韓国が力をつけているので、10年後に同じ立ち位置でいられるか、危機感を感じています。

（渡辺委員）東京都の観光審議会の専門調査員をしているのですが、東京の観光といっても多摩や島嶼部など範囲が広いので、ゾーニングしてエリア毎に考えなければ先に進めないという議論になっています。

今回の議論は必ずしもパシフィコを拡張するか否かではなく、横浜のMICE機能強化を考えることです。産業インフラであるMICE施設をしかるべきに場所に立地するということを考えた場合に、みなとみらい２１地区をMICE機能の拠点としてやっていくのか、みなとみらい２１地区とそれを中心とした横浜の一部のエリアの強み、弱みは何なのかということを明確にしていくべきだと思います。

横浜市全体のMICE拠点を分散化して、横浜市全体を再生し、横浜市全体を盛り上げていこうという意味でも、政策の柱であるMICEについての理解を整理し、議論する必要があると思います。

（齊藤委員長）最後にもう一回ずつくらい各委員からお話し頂いていいでしょうか？

（鎌形委員）現状も重要ですが、将来どうしていくかという視点が重要です。アジアと競合するという話がありましたが、競合する相手とどこで勝って、どこで負けるのか？アジア全体で産業を活性化していく流れの中で、国際会議自体は増え、規模が拡大していく、そういう見通しを持って計画していく必要があります。また、アジア各都市と競合していくのであれば、海外は何をウリにしていくの

	かということを見据える必要がります。例えばアジアでは、規模の大きいコンベンション施設や、複合的なコンベンション施設、価格が安いコンベンション施設などありますが、横浜はどこで競争し、勝負するのかという視点から考えていく必要があります。 （齊藤委員長）先ほど川崎さんからもあったように、横浜は日本らしさをウリにしなければいけません。横浜は横浜らしさばかりを言っていることを感じます。 （ 椿 委 員 ）アジアの中で一番になりたいと思ったら、日本らしさは大切。 個別の強み弱みについて。今回の震災の後、アジアの方から、私が横浜に住んでいることを知っているのに、心配する声をもらいました。海岸の傍は危ない、原発は危ないという意識が、外国人にあると実感した。日本の強みはこれまで安全性でしたが、弱みになっている可能性もあるのではないでしょうか。その点を強みに変えていくためには、安全性には問題ないという強い発信がないと、今後弱みになる可能性がある。イメージチェンジをしていく必要性を、震災後の海外からのメールを受けて思いました。 また日本の医療が最も進んでいることは、海外からの認識として定着しているので、医療ツーリズムを国際会議に盛り込んでいくことも、強みになりうるのではないかと思います。 （高 見 委 員）MICE拠点の機能強化を考える上で、経済的社会的なメリットやそのためのコストを、定性的なこと以外にも深く検証してほしいと思います。 また、海外には様々な手法があるので、今後の２０年３０年後の、モデルプランニングやスキームを考えるべきだと思います。 （齊藤委員長）時間になりましたので終了いたします。本日はありがとうございました。
資　料 ・ 特記事項	**１ 資料** 次第 資料２　横浜市MICE機能強化検討委員会設置要綱 資料３　委員会設置趣旨、本日ご議論いただきたい内容 資料４　国際観光・MICE都市の実現に向けたアクションプラン（MICE抜粋） 資料５　横浜市の現状について **２ 特記事項** 次回は８月末に開催予定。